

事業概要

①パンの店頭販売による地域の人達との交流事業

- ・8月下旬から9月下旬にかけて、相次いで看板の取り付けや備品の購入をした。
テーブル (8/24)、カーテン (9/22)、看板 (9/25)、販売用トレイ (9/23)。レジスターはやや遅れ、10月に入って通販のものを購入 (10/11)
- ・9月第2週から宣伝準備開始。2種類のチラシを作成。店頭販売開始前はマリimba演奏会招待のチラシ、販売開始後は店頭販売開始を告げるチラシをそれぞれ1500枚程度作成、毎週地域を分けて、ポスティングした。
- ・事業開始⇒マリimba演奏会の翌日の9月27日(水)から週(月・水・金)3回店頭販売を行なう。
- ・地域の人たちの来客者数は毎週延べ約200人に達し、店頭の売上も毎月ほぼ10万円以上となった。
- ・通所者はローテーションを組んで店番。当初はお釣りを間違えたり、袋入れに戸惑っていたが、月を追うごとに慣れ、常連客も増え、会話も弾み、相互の理解も増したのではないかと思われる。
- ・店頭販売を含むパンの月別販売額は別紙のとおり。例年そうであるが、真夏と真冬は販売高が減少するが、今年度も同じ傾向を示した。店頭販売も、販売開始直後は約13万円となったが、その後減少し、1月には休日が多かったことも影響して9万円台に落ち込んだ。しかし、2月から暖かくなるにつれて販売高も回復しつつある。

②チャレンジ社会体験事業

- ・9月から1月まで5回実施(5回とも日曜日)。そのほかに1回水曜日にパン工房を訪問・見学(社会体験事業ではあるが、デイケア就業時間中のため、予算支出はなし)。
 - ・通所者の参加は1回当たり5~8人(全11人)。
 - ・ボランティアを募る。独協大学前で9月第2週から毎週水曜日に5回程度チラシを手渡す。図書館にも置かせていただく。3週間は何の反応もなかったが、第4週になって1人、図書館で見た学生2人が応募。ついで第5週になって、独協大生1人が応募。大学生・看護学校生合わせて3人が参加。その他社会人ボランティア1人参加。
 - ・助成金は常勤職員の日当と交通費に出費。参加者とボランティアの費用は参加者が負担。端数の残金は事業に寄付。
 - ・行った場所は下記のとおり。
9月=ぶどう狩り(千葉県鎌ヶ谷市)
10月=上野動物園(東京都台東区)
11月=葛西臨海水族館(東京都江戸川区)
パン工房「デージー」(越谷市蒲生)を見学
12月=東京江戸博物館(東京都墨田区)
1月=東京タワー(東京都港区)
- 若いボランティアを伴った社会体験活動は、親としか出かけることのなかった通所者にとって、新鮮だったようで、雨の中や寒い日でも笑顔が絶えず、車椅子を担いで駅の階段を上り下りしたことも貴重な体験になったようだ。

以上